

「長野県史蹟名勝天然記念物調査報告」に掲載された

フロラ関係文献目録 (1)

長野県史蹟名勝天然記念物調査報告は、全28輯で1923(大正12)年より、1951(昭和26)年まで発行された。毎年1冊の出版ではなく、年3回のこともあり、また出版を休んだ年もある。

史蹟名勝天然記念物保存法は、故三好博士らの努力によって、1919(大正8)年に公布施行された。始め内務省の管理であったが、1928(昭和3)年より、文部省に移管された。

長野県でもこの趣旨にのっとり、国の指定にもれたもの、次位のもの等を調査報告した。内容は、

1. 史蹟(本稿では除く)

2. 名勝(湖沼、高原、瀑布、温泉、橋梁、鍾乳洞、巖穴、池沼、山地、林業、庭園、公園等)

3. 天然記念物(地学、動物、植物)

に大別できる。このうち植物関係では、高山植物、植物地域、湿原、社寺林、並木、自然林、巨木、稀品、枝垂れ、分布限界、八重咲品等の記事がある。

国、県関係の名勝と天然記念物の総目録は、次の文献にまとめられている。

横内 斎編著(1950): 長野県の名勝と天然記念物 133 pp. 林友会長野支部

本稿では、おもに植物関係の記事を拾い上げた。記録項目は、号数、発行年、著者、テーマ、頁の順である。()内へは、一部内容を略記した。

第1輯(1923-大正12年)

今井 真樹: 御射山神戸ノ一里塚 p.28~33
(左塚にケヤキの大樹、根まわり8.25m)

市村 威人: 智里村篠木 p.98~100(ヒノキ、樹高21m)

—————: 大鹿村逆公孫樹 p.102(イチョウの名木)

河野 齡蔵: とがくししようま(戸隠升麻)p.139~148(戸隠及び白馬岳の分布)

—————: 木曾に於ける花の木の自生地 p.149~160(神坂、田立、大桑の分布)

小山梅太郎: さかさ爛付枝垂栗 p.175~186(カシワの名木-野辺山、シダレグリー-南牧村)

第2輯(1924-大正13年)

矢澤米三郎: ひめばらもみ p.76~81(分布)

千野 光茂: 諏訪神社上社社叢 p.82~86(主要植物目録あり)

河野 齡蔵: 八房栗 p.87~92(クリの変種)

小山海太郎: モイハナズナの産地 p.93~95(岩鼻)

—————: 名木としての榎の木 p.96~97(カヤの大樹、樹高18m、小県、祢津)

—————: ツキヌキソウの自生地 p.97~101(分布、小県郡)

—————: 名木としての相生松 p.101~103(アカマツとクロマツ-岩村田)

—————: 野生の里芋 p.105~109(青木村)

第3輯(1925-大正14年)

小山海太郎: 飯盛の松 p.143~144(アカマツの名木)

—————: 銀杏樹 p.145~147(イチョウの大樹、樹高36m)

市村 威人: 下伊那下條村花の木自生地 p.173~175

唐澤貞治郎: 古桧栢樹 p.177~179(樹高21m)

第4輯(1925-大正14年)

小泉 秀雄: 保護すべき千曲山脈の遺存寒地帯(千曲山脈の植物地理学的研究)p.49~204(植物目録及び植生図あり)

—————: 珍種、二度栗(*Castanea crenata* S. et Z. var. *Matsushitana*, m.)に就て p.205~218(年2回開花結実、大鹿村)

—————: 珍種を産する嵐宿及半過の岩鼻 p.219~228(モイワナズナ、イワナデシコ、シンバク、ニラ、モモ、コカラマツ、ヒモカズラ等)

河野 齡蔵: 枝垂栗の分布 p.229~238(分布図あり)

第5輯(1926-大正15年)

河野 齡蔵: 立石の二本杉及び枝垂桜 p.157~163(雄杉樹高62m、雌杉44m、シダレザクラ)

市村 威人: 下伊那郡桑阜村の老桑樹 p.165~169(クワの大樹、根回り4.8m)

八木 貞助: 一本木 p.171~175(アカマツの大樹、樹高27m)

—————: 矢彦、小野両神社社叢 p.177~181(主要植物目録あり)

小山海太郎: 千本松 p.191~196(ウツクシマツ、樹高10.8m等3本)

第6輯 (1926—大正15年)

河野 齡蔵：三度栗 p.11~20 (年3回結果)

小泉 秀雄：日本南アルプス (赤石山系) の遺存寒地帯 (4図版附) —— 植物地理学上より日本アルプス氷河問題の解案 —— p.21~194 (目録, 新種等の報告あり)

—————：木曾山口村の枝垂桜 p.195~199 (シダレエノキ, 樹高4.5m位)

—————：上伊那郡朝日村の二度栗 p.201~210 (年2回開花結果)

—————・八木 貞助：高遠公園の小彼岸桜 p.211~228 (コヒガンザクラ 310本)

—————：伊那町小学校庭の白小彼岸桜 p.229~230 (新変種)

—————：松本市郊外里山辺の白枝垂彼岸桜 p.230~231 (新変形)

第7輯 (1926—大正15年)

河野 齡蔵：富県村の三度栗 p.59~60 (樹高12.7m)

—————：社村神明宮の大杉 p.61~64 (スギの大樹, 樹高55m等)

八木 貞助：橡の木 p.65~67 (トチノキの大樹, 樹高28.5m)

—————：神代桜 p.69~73 (アズマヒガンの名木)

小山海太郎：小田切村の巡礼桜 p.75~79 (アズマヒガンの名木)

—————：上田市のハゴロモカシハ p.81~83 (カシワの変種, 樹高5.4m)

—————：名勝地躑躅山 p.85~88 (ヤマツツジ群落, 豊野町)

第8輯 (1927—昭和2年)

河野 齡蔵：下伊那郡に於ける花の木の自生地 p.91~102 (伍和, 山本, 会地, 下條, 旦開)

小泉 秀雄：保護すべき寒地植物帯の決定 (其一) p.103~254 (本県の寒地植物の種類と分布, 新植物の報告)

—————：ハクセンナズナの自生地 p.254~268 (中ア, 南ア)

—————：上飯田村の二度栗 p.269~276

—————：木曾駒ヶ岳及木曾谷一帯の石南類 p.277~308 (シャクナゲの新種等の報告)

—————：信州産ツツジ科の新品 (豫報) p.309~312

—————：珍らしきツツジ類の自生地 p.313~314 (下伊, 木曾)

第9輯 (1928—昭和3年)

河野 齡蔵：北安曇郡神城村字三日市場神明宮の大杉 p.145~146 (スギの大樹, 樹高41.4m)

小山海太郎：野生梨ノ老大樹 p.156~158 (ヤマナシ, 樹高27m)

—————：日里村ノ大杉 p.158~160 (スギ, 樹高54m)

—————：上水内郡七会村ノ橡ノ木 p.161~164 (トチノキの名木, 樹高39m)

八木 貞助：上水内郡戸隠村通称「上野の桂の木」に就て p.165~171 (カツラの名木, 樹高28m)

—————：静の桜 p.172~175 (イヌザクラの名木, 樹高22.5m, 美麻村)

第10輯 (1929—昭和4年)

小泉 秀雄：熱帯植物「ミズスギ」の自生地 p.125~129 (中房温泉)

—————：稀品「キソキイチゴ」の自生地 p.131~138 (阿寺川, 西小川)

—————：木曾三岳村の「ヒガンザクラ」 p.139~142 (樹高20.4m)

—————：木曾三岳村の「トチノキ」 p.143~145 (樹高40m)

—————：新種「キソツクバネウツギ」 p.146~149 (阿寺川)

—————：「シロバナタンポポ」の分布極限地 p.150~154 (下伊那・会地, 三穂, 飯田, 松尾)

—————：「クワンセイタンポポ」の分布極限地 p.155~158 (木曾・上松西小川)

—————：新種「ウスギタンポポ」一名「シナノタンポポ」 p.159~166 (松代, 地藏峠, 茶臼山, 聖山, 白坂トンネル)

—————：寄生植物「ミヤマツチトリモチ」 p.167~170 (木曾・大桑村, トチノキに寄生)

—————：木曾境峠の混交型遺存寒地帯 p.171~185 (野帳あり)

—————：新種「キソクロソゴ」 p.186~188 (境峠)

—————：新変種「オホバナカラフトイバラ」の自生地 p.189~193 (屋代, 地藏峠, 聖山, 浅間系火山連峰)

—————：珍変種「ミツバナウグヒスカグラ」 p.194~197 (一花軸に無梗の花1~3個)

—————：稀品「シロバナアブラギク」の自生地 p.198~201 (上田, 松代, 北佐久)

—————：松代の二度栗 p.202~206

—————：珍品「シダレマツ」 p.207~210 (ア

カマツの枝垂れ、松代)

- : 美和村の圓座松及美松 p.211~221
————— : 新変種「シダレイテフ」 p.222~
229 (イチョウの枝垂れ、樹高17m、松代)
————— : 珍木「シダレイテフ」(枝垂公孫樹)
p.230~231 (樹高16m、上水・神郷)
————— : 「シダレイテフ」(枝垂公孫樹)の
大木 p.232~233 (樹高22m、上高井・綿内)
————— : 蓮如上人袈裟掛の大公孫樹 p.234
~236 (イチョウの名木、樹高25m、上水・長沼)
————— : 柿の原種なる山柿 p.237~244 (ヤ
マガキ、金比羅山)
————— : 竜勝寺の「ヒガンザクラ」 p.245~
249 (ヒガンザクラの大木、樹高25m)
————— : 「キクザキヤマブキ」の野生品 p.
250~253 (上伊・阿南、木曾・読書)
————— : 美鷲村の一里の木(新称「ハハキヒ
ノキ」 p.254~259 (ヒノキの変形)
————— : 新野峠の「ウツギ」類(珍種新種の
集団) p.260~269 (マガリバナウツギ等)
————— : 新変種「シトクツツジ」(四徳躑躅)
p.270~274 (ヤマツツジの変種、上伊)
————— : 小野公園の「シダレヤマザクラ」(枝
垂山桜) p.275~285 (上伊)
————— : 里山辺村の「ユキシダレヒガン」(雪枝
垂彼岸桜) p.286~288 (シダレヒガンの白花品)
————— : 「オホシマザクラ」(大島桜)の原品
p.289~297 (南安・高家)
————— : 珍種「オンタケマメザクラ」(御岳
豆桜) p.298~303 (新種、濁川温泉)
————— : 福島町城山の桜の珍種(キソマメヤ
マサクラ)その他 p.304~314
————— : 珍種「キソヤマザクラ」(木曾山桜)
p.315~319 (福島町城山)
————— : 稀品「シダレザクラ」(枝垂桜)
p.320~329 (上伊)
————— : 新変種「ミスズザクラ」(美鷲桜)
p.330~334
————— : 珍らしき「ヒトヘヤヘケヤマザクラ」
(一重八重毛山桜) p.335~336 (赤穂)
————— : 飯島小学校の「ムレヤマザクラ」(群
山桜)並にその変種 p.337~345 (新種)
河野 齡蔵: 明盛村三柱神社のハリギリ p.346
~347 (ハリギリの大樹、樹高30m)
————— : 下伊那郡根羽村の枝垂栗 p.348~
349 (樹高12.6m、飯田以南では稀有)

- : 下伊那郡市田村出原の晴明桜 p.350
~352 (アズマヒガンの大樹、樹高15.3m)
————— : 下伊那郡根羽村月瀬の大杉 p.353~
355 (スギの大樹、樹高48m)
小山海太郎: 宇喜の千歳桜 p.356~358 (アズマ
ヒガン、下高井)
————— : 夜間瀬村大日庵の源平枝垂桜 p.359
(シダレザクラの紅白花)
————— : 野辺山原の梨樹 p.361~362 (ヤマ
ナシの大樹、樹高15m)
————— : 突貫落葉松 p.363~364 (カマツ、
毬果上に枝條をのばす、長野)

第11輯 (1930-昭和5年)

- 八木 貞助: 名称 登波離橋 p.87~109 (アカ
マツ、フジ、ヤマツツジ等の景勝地)
矢澤米三郎・今井 真樹: 諏訪郡長地村出早神社
及其の社叢 p.109~118 (目録あり)
河野 齡蔵: 北安曇郡北城村字宮の入諏訪社の桂
及び大杉 p.119~122 (カツラ樹高34.8m、スギ
樹高36.8m)
————— : 北城村字細野諏訪社の大杉 p.123~
125 (スギの大樹、樹高41.2m)
————— : 北城村字切久保諏訪社の大杉及び椈
p.127~130 (スギ樹高29m、モミ樹高21.8m)
小山海太郎: 長野市に於ける白小彼岸桜 p.131
~134
————— : 善光寺のジズアンズ(珠数杏)仮
称 p.135~140 (アンズの核の縁辺に孔あり)
————— : 坂城町字荊屋原に於ける椈並木 p.
141~150 (エノキ並木 14株17本)
————— : 塩尻村のナンヂヤモンヂヤの木 p.
157~159 (フジキ、樹高9m、上田)
————— : 小県郡東塩田村通称「地頭木」に就
て p.167~169 (ケヤキの大樹、樹高18m)

第12輯 (1931-昭和6年)

- 河野 齡蔵: 東筑摩郡片丘村字荒井原栗の大樹
p.33~36 (クリの大樹、樹高21m)
————— : 東筑摩郡入山辺村千手の公孫樹 p.
37~40 (イチョウの大樹雄株、樹高29m)
————— : 下伊那郡神稲村長澤公園桜の大樹
p.41~43 (アズマヒガンの大樹、樹高23m)
八木 貞助: 下伊那郡泰阜村南宮神社社叢及其景
勝 p.44~49 (ツガ、アラカシ、シラカシ、ツバキ
等の自生)
————— : 下伊那郡神原村お萬様の藤 p.53~
54 (フジの大木 樹齡約420年)

————— : 下伊那郡下條の第木 p. 58~61 (ヒノキの異形, 樹高16m余)

————— : 天竜峡の杜松 p. 62~64 (ネズミサシの雌株, 樹高 19.7 m)

小泉 秀雄: 下水内郡飯山宮林署庭の「チノマメザクラ」(知野豆桜) p. 67~74 (新種)

————— : 西筑摩郡福島町附近「ベニマンサク」の分布北限地帯 p. 75~80

————— : 上伊那郡富県村「ヤヘヤマツツジ」(八重山躑躅) 並に「ホソザキヤマツツジ」(細咲山躑躅) p. 81~87

————— : 上伊那郡富県村の「タマザキフジ」(玉咲藤) p. 88~95 (花は球状)

————— : 諏訪郡上諏訪町温泉寺の「キレハイテフ」(切葉公孫樹) p. 96~99

————— : 下高井郡野澤温泉の「サンキザクラ」(三季桜) p. 100~107 (新種, 年3回開花)

————— : 南安曇郡穂高町新変形「アリアケツツジ」(有明躑躅) p. 108~112 (ヤマツツジの小型花, 離弁花冠)

————— : 南安曇郡有明村「シダレウコンザクラ」(枝垂鬱金桜) p. 113~118

第13輯 (1932-昭和7年)

矢澤米三郎: 南佐久郡北牧村松原猪名湖及長湖附近の林叢 p. 215~230 (両湖附近の植物目録)

八木 貞助: 名勝天竜峡 p. 231~248

————— : 上伊那郡西箕輪村吹上若宮社, 花柏及藤 p. 249~254 (サワラ 樹高 35.75 m, フジ 根廻り 3.93 m)

————— : 東筑摩郡生坂村乳房観世音公孫樹 p. 255~258 (イチョウの大樹, 樹高 35.32 m, 柱瘤25本あり)

小泉 秀雄: 燕岩の遺存寒地帯 p. 259~279

————— : 新変種「シダレイヌザクラ」(枝垂犬桜) p. 279~282

————— : 枝垂毛山桜(シダレケヤマザクラ) p. 283~287

————— : クダザキヤマデノギク(管咲山路野菊)の自生地 p. 287~292

————— : 桜塚円満坊の老彼岸桜並木 p. 293~298

————— : 「ミヤマトサミツキ」一名「カウヤミツキ」の分布北限地帯 p. 299~304 (島々谷と下伊那)

————— : 上高地温泉「ミツスギ」の自生地 p. 304~306

————— : 栗尾満願寺の大杉 p. 306~310 (スギの大樹, 樹高48.6m)

————— : 穂高神社社前の松並木(豫報) p. 310~315

小山海太郎: 祢津村のハゴロモガシワ p. 316~318

————— : 芦田村の大杉 p. 320~321 (スギの大樹, 樹高27m)

————— : 開中桜 p. 322~324 (アズマヒガン, 樹高20m)

————— : 上田神社の変り槭 p. 324~326 (仮称エダガワリカエデ)

————— : 姨捨の桂 p. 327~328

————— : 女夫松 p. 328~330 (アカマツの連理)

第14輯 (1933-昭和8年)

矢澤米三郎: 上高地(神垣内, 神河内) p. 183~231 (植物目録あり)

八木 貞助: 名勝野尻湖 p. 232~248

河野 齡蔵: 槻井泉神社の湧泉及び樺 p. 275~279 (松本)

————— : 北安曇郡美麻村字大倉の一位 p. 279~281 (イチイの大樹, 樹高20m)

————— : 安曇村伊勢二の宮社のナンヂヤモンジャの木 p. 281~284 (フジキの大樹, 樹高22m, 北限)

————— : 飯田町愛后神社の東彼岸の大樹 p. 284~285 (アズマヒガン 樹高11m)

小泉 秀雄: 戸隠中社及び宝光社の桜樹全体 特に中社, 宝光社間の桜(信濃桜, 蝦夷山桜)並樹 p. 286~330

————— : 北安曇郡青木湖附近の桜樹(信濃桜, 蝦夷山桜) p. 330~335

————— : 富士里村の閑貞桜 p. 335~341 (ヒガンザクラの枝垂れ, 樹高15m)

————— : 穂高神社社前の松並樹(後報) p. 341~344

————— : 藤澤村の珍種「トリアシカヘデ」(鳥趾槭) p. 345~349 (新種)

————— : 上田神社の「フタガタカヘデ」(二型槭) 豫報 p. 349~360

————— : 小菅神社の杉並樹並に自然生杉 p. 361~371

————— : 瑞穂村小菅山の姫小松の自然林 p. 372~377

小山海太郎: 岩清水神社御神木の松 p. 378~379 (アカマツの大樹, 樹高36m余)

————：祢津の「しなのき」の大木 p.379
 ～381（樹高28m）
 ————：本原の「あきにれ」 p.381～382
 （樹高30m）
 ————：臥雲の三本杉 p.382～385
 ————：獅子振石の「しだれにれ」 p.385
 ～387
 ————：餘五將軍平維茂駒つなぎの一位の木
 p.387～390（イチイの雄，樹高13m）
 ————：美都穂神社社叢 p.390～392
 八木 貞助：長岡神社のハリギリ p.393～394
 （ハリギリの大樹，樹高32.7m）
 ————：朝日村五社の落葉松 p.395～397
 （カラマツの大樹，樹高48m）
 ————：白澤の大栗 p.397～399（クリの大
 樹，樹高11m）
 ————：卯の木の栗 p.399～400（クリの大
 樹，樹高20m）
 ————：片桐村中西の桜 p.400～402（エド
 ヒガンの大樹，樹高22m）
 ————：横山の岩手山梨 p.402～404（イワ
 テヤマナシの大樹，樹高14m）
 第15輯（1934—昭和9年）
 河野 齡蔵：霧ヶ峰高層湿原 p.108～174（植物
 目録あり）
 矢澤米三郎：天然記念物 ホシザキツツジ p.180
 ～186（ヤマツツジの離弁花冠）
 八木 貞助：伊那町伯先桜 p.187～190（シダレ
 ザクラ）
 ————：坂井の千本杉 p.190～194（スギの
 変種）
 ————：安坂の一本杉 p.194～196（スギの
 大樹，樹高37.8m）
 ————：下市田の終 p.196～198（ヒイラギ
 の大樹，樹高13m）
 ————：山本村大林の花の木 p.198～200
 （北限）
 ————：喬木村市場の大藤 p.201～203（フ
 ジの大樹，樹高27m）
 ————：山本勘助物見の松 p.203～205（ア
 カマツ）
 ————：大屋敷の岩手山梨 p.206～208（イ
 ワテヤマナシの大樹，樹高30m，南限）
 ————：山本村の大栗と紫藤 p.208～211
 （タンバグリとフジ）
 小山海太郎：篠ノ井町のお葉附公孫樹 p.224～227

————：猿丸とどの七本松 p.227～230（ア
 カマツ）
 ————：戸隠の三本杉 p.230～233（スギの
 大樹，樹高38，41.9，37mの3本）
 ————：三ツ木の樺 p.234～236（イチイの
 大樹，樹高19m）
 ————：六道原の一本樺 p.236～238（ケヤ
 キの大樹，樹高48m）
 ————：巖窟観世音の大杉 p.238～242（ス
 ギの大樹，樹高45m）
 ————：八幡村の七福栗（仮称） p.242～
 246（クリの果実内に6～7個の堅果）
 ————：珠数杏の分布 p.246～254
 ————：吉田の大公孫樹 p.257～261（イチ
 ヨウの大樹，樹高28m）
 河野 齡蔵：大平山神社モミの大樹 p.261～263
 （モミ，落雷のため3.15mより上は欠損）
 ————：安林の枝垂栗 p.264～265
 小泉 秀雄：西條村の八房榎（新称） p.266～
 269（カヤの変種）
 ————：珍種イナガヤ（伊那榎）新称，新種
 p.269～271
 第16輯（1935—昭和10年）
 八木 貞助：名勝仁科三湖 p.217～235（三湖の
 植物分布図あり）
 ————：下伊那郡和田村夜川瀬の樺 p.253
 ～254（ケヤキの大樹，樹高27m）
 ————：下伊那郡上郷村田中八幡社の杉 p.
 255～256（スギの大樹，樹高約30m）
 ————：下伊那郡満島の榎 p.256～258（カ
 ヤの大樹，樹高20m）
 ————：下伊那郡満島の榎 p.258～260（エ
 ノキの大樹，樹高24m）
 ————：神坂神社雌杉（二本杉） p.260～
 261（スギの大樹，樹高30m）
 ————：下伊那郡千代村荻坪の大榎 p.262～
 263（モミの大樹，樹高34m）
 ————：北安曇郡中土村白山社大杉 p.264～
 267（スギの大樹，樹高42m）
 ————：東筑摩郡波田村の岩手山梨 p.267～
 269（イワテヤマナシの大樹，樹高18m）
 河野 齡蔵：麻績村神明宮の大杉 p.270～271
 （スギの大樹，樹高54.6m）
 ————：塚原のシダレネズ p.272～273（ネ
 ズミサシの枝垂れ）
 ————：西の宮樺の大樹 p.274～276（ケヤ

キ、樹高21.8m)

——— : テウセンマツの大樹 p. 276~277

(チョウセンゴヨウ、樹高27.3m)

矢澤米三郎 : ハケ岳連峯 p. 278~289 (植物目録あり)

——— : サカネラン p. 289~291 (無葉の蘭

根植物、小諸)

小山海太郎 : 珍果の梅樹 p. 292~295 (梅の果実に開溝部あり)

——— : ウンリュウヒバとサハラ (樺) とのキメラ p. 296~298 (更級郡信里村山布施)

(横内文人)

〔新刊紹介〕諏訪市教育委員会編「霧ヶ峰の植物」
B 5 判、諏訪市教育委員会発行 (1982)

1971に発行された「霧ヶ峰の植物」の再版であるが、10年を経過した今回発行のものは、その内容はほとんど一新されている。二部構成全一巻である。

第一部「霧ヶ峰の植生」鈴木兵二監修、矢野悟道編集、B 5、16+6+246頁、付表別冊19枚、袋入り植生図3枚

第二部「霧ヶ峰の植物目録」鈴木兵二監修、矢野悟道編集責任、B 5、4+2+113頁、非売品

第一部では三湿原の航空写真と生態写真それにミズゴケ類をカラーで口絵に掲載。I 霧ヶ峰の地質と地形、II 霧ヶ峰高層湿原の水質、III 霧ヶ峰の気候、IV 高層湿原の成立と分布、V 花粉分析からみた霧ヶ峰周辺の植生遷移、VI 霧ヶ峰湿原植生の概観、VII 湿原および周辺の植生、VIII 八島ヶ原湿原にみられる特異な地形、IX 八島ヶ原湿原における主要構成種の分布と14年間の消長、X 霧ヶ峰周辺のミズゴケ類の分布、XI 森林の植生、XII 草原の植生、XIII 霧ヶ峰高原のチリモ類、XIV 霧ヶ峰の自然保護 以上の14項目にわたった調査報告である。鈴木博士の14年間におよぶ研究と、矢野先生外6名の協力者による共同研究執筆となっている。詳細な調査がなされていて、今後の霧ヶ峰の植物遷移をさぐる上での重要な記録であるとともに、学術的にも高く評価される。

第二部目録は、I 霧ヶ峰の概要、II 霧ヶ峰の植物目録、III 霧ヶ峰の植物写真の3項目からなり、本田正次・飛田広両氏の「霧ヶ峰の植物 (1941)」の目録をもとに検討を加え、蘚類・苔類・地衣類が若干追加されている。

この本の発行は、1982年3月25日となっているがわれわれが1年前 (1981年2月1日) に出版した、「諏訪の自然誌 植物編」に全く言及されていない点が不思議に思われる。同一地域を研究するには、やはり、互いに情報交換が必要であろう。希望者は、同教委へ。頒価 7,000円。

(T. I. 生)

〔新刊紹介〕土田勝義「白馬岳の高山植生と荒廃地回復に関する研究 (特殊植物保全事業 昭和53年度~55年度報告)」B 5 判 79頁。白馬村・白馬村教育委員会発行 (1981)。非売品。

この報告書は、植物生態学者 土田博士の3年間にわたる汗と努力の結晶ともいべき労作である。

白馬岳 (2,993m) は、日本が世界に誇り得る高山植物の名山であるが、残念なことに近年メイン・ルートは登山者であふれ、植生の荒廃はひどい状態になってしまった。著者は、まず白馬岳高山植生の荒廃がどれほどひどいものであるかを、多くの実例をあげ、自然植生と比較されながら明らかにされた。次にこの荒廃した植生をいかにして回復させるかという本研究のメイン・テーマでは、従来の白馬岳の植生研究とは全く異なった、ユニークな方法で、亜高山帯・高山帯の草原を永年研究されてきた著者にしてはじめて可能な、植生管理学の分野に画期的新機軸をなす研究をおこなわれた。全体の構成は、I はじめに—研究の目的、II 白馬岳の調査地域の概要、III 白馬岳の植生と植生図 と続き、ここでは植物群落を、ハイマツ群落、風衝群落、高茎草本群落、低茎草本群落、湿生群落、ウルップソウ群落、イワノガリヤス群落、コマクサ群落、ミヤマハンノキ群落および階状構造土群落に分け、組成表と生活型組成因を示し、詳細な解析がおこなわれている。IV 白馬岳の荒廃調査、V 荒廃植生について、VI 高山植物の種子発芽実験、VII 総まとめ—緑化への指針、VIII 高山植物の開花期間について、とIV~VIIでは、白馬岳の高山帯・亜高山帯に産する48種の植物の発芽試験に基づき、荒廃し裸地化した地域の緑化についての重要な提言も含まれている。さらに、IX 白馬岳高山植物目録、X 参考文献、となり、XI Summary では2頁にわたる英文摘要がある。最後に、付図として、カラー現存植生図 (5,000分の1) がついている。 (H. T.)